

①正倉院のものと酷似しているガラス玉。縞模様(上)と、ねじり細工(下の二つ)②正倉院宝物のガラス玉。ねじり細工(左)と縞模様(右)がある



平等院ガラス玉 正倉院そっくり

平安後期に藤原頼通によって創建された世界遺産の平等院(京都府宇治市)は24日、国宝の本尊・阿彌陀如来坐像の台座から見つかったガラス玉が、正倉院(奈良市)で所蔵されている奈良時代のものと同様であると発表された。

藤原氏、光明皇后から継承か

2004年に平等院の本尊などを修理した際に本尊の台座内部から見つかったガラス玉のうち、186個について東京理科大学や日本ガラス工業学会の研究グループが調査した。その結果、うち約1割のガラス玉は鉛の含有量が約70%と高く、聖武天皇愛用の宝物などを収めた正倉院や、興福寺、元興寺(いずれも奈良市)などで見つかった奈良時代のものとの可能性が高いと判断した。

さらに、3点は、ねじって花びらのような形にする細工や、違う色のガラスを練り込んだ縞模様などが正倉院のものと同様で、同じ工房で作られた可能性があると推測する。

(合田 緑)

京都市美術館の村井康彦館長(日本文化史)は「聖武天皇の遺品は藤原家出身の光明皇后の元に残り、藤原家で継承され、のちに平等院の創建時に収められたものかもしれない」と推測する。